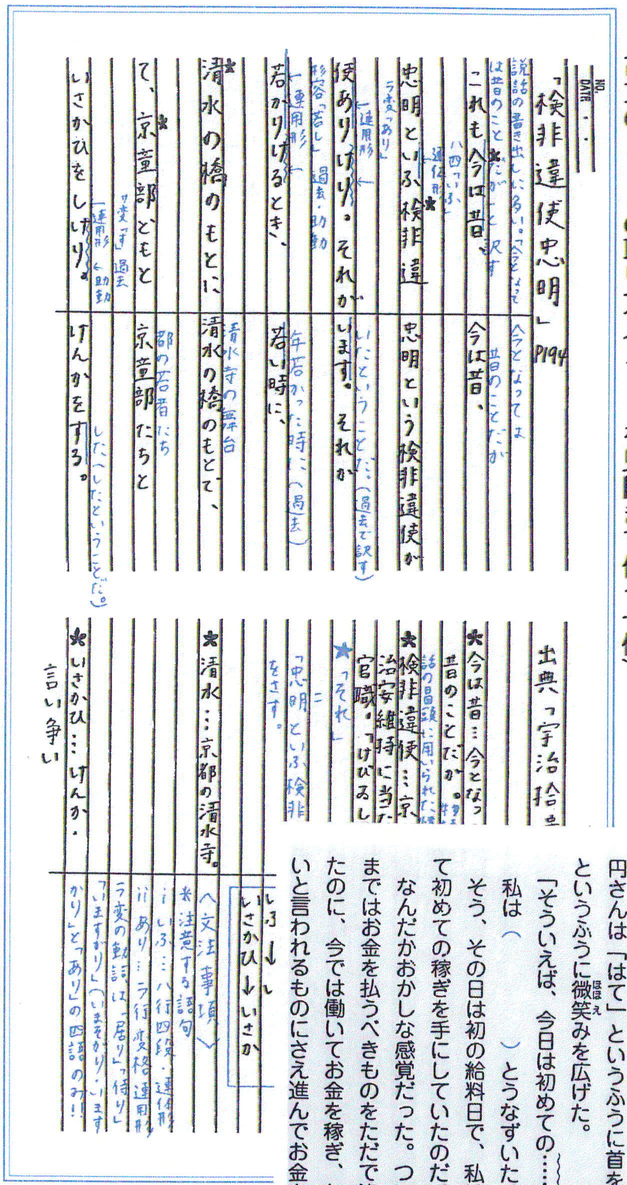
古文のノートの取り方〈ノートを見開きで使う一例〉



NO.
DATE　・　・

「検非違使忠明」P194

説話の書き出しに多い。「今となっては昔のこと」と訳す

これも今は昔、

ハ四「いふ」連体形

忠明といふ検非違

ラ変「あり」連用形

使ありけり。それが

形容「若し」連用形　過去・助動

若かりけるとき、

清水の橋のもとに

て、京童部どもと

サ変「す」連用形　過去・助動

いさかひをしけり。

今は昔、（今となっては昔のことだが）

忠明という検非違使が

います。それが（いたということだ（過去で訳す））

若い時に、（年若かった時に（過去））

清水の橋のもとで、（清水寺の舞台）

京童部たちと（都の若者たち）

けんかをする。（した（したということだ。））

出典「宇治拾遺

★今は昔…今となっ
昔のことだが。

★検非違使…京
治安維持に当た
官職。「けびゐし」

話の冒頭に用いられた

★「それ」
に
「忠明といふ検非
をさす。

★清水…京都の清水寺。

★いさかひ…けんか。
言い争い

いふ↓い
いさかひ↓いさか

〈文法事項〉
※注意する語句
ⅰいふ…ハ行四段・連体形
ⅱあり…ラ行変格・連用形
ラ変の動詞は「居り」「侍り」「いますかり」（いまそかり・います
かり」と「あり」の四語のみ!!

一段目の書き方
①教科書の本文を書く。
②隣の文と二行程度あけて写す。
③授業での説明された内容を色ペンであいている所に書く。細かい説明は四段目にまとめる。

二段目の書き方
①自分で訳してきたものを書く。
②一段目と対応させて隣の文と二行程度あける。
③授業で説明された訳文と違う所や補足するものを書き込む。

三段目の書き方
①古語辞典で調べた事柄を書き写す。
②教科書欄外の★印の解答なども書き記す。
③重要事項や補足事項を色ペンで書き足す。

四段目の書き方
①授業で黒板に書かれた事柄をまとめる。
②登場人物の関係図や文法事項のまとめを書く。古典文法のテキストとの対応もできるように書く。
③重要事項は色ペンを使う。

★古文・漢文の、ノートの取り方の見本を掲載！
入学後の授業への橋渡しができるように十分に
配慮してあります。

★教材として、ハリー・ポッターを翻訳した
松岡佑子氏の随筆、中高生にも人気のある
森絵都氏の小説など、新入生たちになじみやすい
文章を掲載しています。

6
小説

すばらしい！
いい調子♪
もう少し！
復習をがんばろう！

／50

次の文章は、中学生のころに非行に走りかけた主人公「紀子（のりこ）」（「ノリ」）が、高校生になってアルバイトを始めたときの話です。よく読んで、後の設問に答えなさい。

「あら、いいのに。残り物なんだから、お金なんて」

ある遅番の夜、ホールの片付けを終えた私が店のケーキを買って帰ろうとすると、レジを閉めていた円（まどか）さんに止められた。

「どうせ残ったら捨てるしかないんだもの。みんなそうしてるし、お金はいいから欲しいだけ持って帰って」

「私はいつもそうしてるけど……。でも、今日は買います」

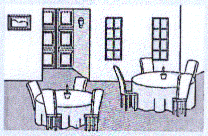
私の声には①不自然な力みがあったのかもしれない。ア勘の良い円さんは「はて」というふうに首をかしげ、それから「あら」というふうに微笑（ほほえ）みを広げた。

「そういえば、今日は初めての……」

私は（　　　　）とうなずいた。

そう、その日は初の給料日で、私は生まれて初めての稼ぎを手にしていたのだ。

なんだかおかしな感覚だった。つい数年前まではお金を払うべきものをただで盗んでいたのに、今では働いてお金を稼ぎ、ただでいいと言われるものにさえ進んでお金を払おうとしている。



正直なところ、金銭や物の価値というものはイイゼンとして私にはよくわからなかった。

「どうでもいいんだよ、価値なんて。要は、②社会のルールを守るか守らないかってこと。ノリはそれを守れるカタギ[*1]になったんだよ」

全部で八個買ったケーキのうち、半分を帰りにヒロの家に届けると、ヒロは出所した前科者でも労（ねぎら）うようにそう言った。近所の女子校へ進んだ彼女も今は社会のルールに則（のっと）って暮らしているらしく、私たちは互いの高校について「平和だけど、退屈」と似たようなウ愚痴をこぼしあって、別れた。

残りのケーキを家に持ち帰ったのは十一時頃（ごろ）だろうか。長いこと箱をふりまわしていたせいで、苺（いちご）のフロマージュ[*2]はすっかり変形していた。にもかかわらず、私からそれを受けとった母はすでに寝ていた父を起こし、短大の友だちと長電話をしていた姉にも声をかけ、温かな紅茶をついで家族全員が集まるのを待った。

私たちはエ厳粛に、③まるで何かの真剣勝負のように、オクズれたケーキを食べた。

（森（もり）絵都（えと）「永遠の出口」より）

[*1] カタギ……地道に（普通に）生活すること。
[*2] フロマージュ……フランス語でチーズのこと。ここではチーズケーキ。

「高校国語へのブリッジ　改訂版」　確認テスト

一　現代文　総合問題（論説文）（各2点×10）

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

①“前座”が面白い。本来、この言葉は落語や講談などで*1真打ちの前に出演することをいうのだが、今はもっとアハバ広く用いられている。

スポーツで前座というと、何をさすのだろうか。ぼくはスポーツのことを書くことが多いのでスタジアムにはしばしば足を運ぶ。

ボクシングには、はっきりとした前座がある。その日の*2メーンイベントが始まる前に*3四回戦ボーイの試合がいくつも組まれるのがふつうだ。プロ野球でいえば*4ファームの試合が前座的だ。高校野球でいえば地区予選か。相撲でいえば*5幕下の取組あたりまでが、いかにも前座らしい。

その前座が面白い、みんなが何者かになろうとしていて、いまだに何者でもない。②玉と石が混淆（こんこう）している。誰（だれ）にも無限の可能性があるのだが、そこにいるほとんどの人間たちが、やがて何者にもなりえなかった自分を見つめつつ、いずこかへ去っていく。□であると知りつつ、無限の可能性を夢見る。そこには妙に③ざらざらとした存在感がある。

無様なパンチをくりだし、イグウゼン当たったパンチでKO勝ち。しかしそのことにすっかりと酔ってしまい、ヒーローのように振る舞う少年。彼はそれをきっかけにウムボウにも、夢に向かって突進してしまうかもしれない。あるいは、自分はもうこれ以上モノになりそうにないなと諦（あきら）めかけた男もいる。所詮（しょせん）、才能がなかったんだと。しかしこのルーキーに負けられないと、一瞬、④目をぎらつかせる。

観客のいない球場、がらんとしたスタジアム、熱気がエジユウマンする前のリングの上にも、日々、ターニング・ポイントが用意されている。毎日、誰かが敗れ誰かが勝者になっている街、東京。路地を曲がったところでも、同じようなドラマが演じられているのかもしれない。人間のうごくところ、どこにでも前座のためのスタジアムがある。

（山際（やまぎわ）　淳司（じゅんじ）「いま“前座”がおもしろい」）

*1真打ち……寄席などでその日最後に出演してすぐれた芸を演ずる人。
*2メーンイベント……一連の試合の中で最も期待される試合。特にボクシングやプロレスなどの最後の試合。
*3四回戦ボーイ……ボクシングで、デビューしたばかりの選手。
*4ファーム……プロ野球の二軍。
*5幕下……相撲で力士の階級の一つ。十両の下、三段目の上。

問1　傍線部ア～エの片仮名を漢字に直しなさい。

問2　文中の空欄に適切な言葉を漢字二字で入れなさい。

問3　傍線部①「前座」に**当てはまらないもの**を後から選び、記号で答えなさい。

ア　メーンイベント　イ　ファームの試合
ウ　地区予選　エ　幕下の取組

問4　傍線部②「玉と石が混淆」とは、どういう意味ですか。後から選び、記号で答えなさい。

ア　優れたものと劣ったものの判断基準がないこと。
イ　優れたものと劣ったものに分かれていること。
ウ　優れたものと劣ったものがまじっていること。
エ　優れたものと劣ったものが交互にあること。

問5　傍線部③「ざらざらとした」に使われている修辞を後から選び、記号で答えなさい。

ア　擬声語　イ　擬態語　ウ　独立語

問6　傍線部④「目をぎらつかせる」とありますが、ここにはどのような気持ちが込められていますか。後から選び、記号で答えなさい。

ア　何者にもなりえなかったと後悔する気持ち。
イ　才能がなかったと初めから諦めている気持ち。
ウ　勝ちに酔いしれてしまっている気持ち。
エ　何者かになろうとして夢に立ち向かう気持ち

問7　筆者は「前座」をどのようなものであると考えていますか。後から選び、記号で答えなさい。

ア　私たちの人生すべてに存在するもの。
イ　芸術やスポーツにおける最大の見せ場。
ウ　現実を知り、去り行く者の夢と希望。
エ　明るい未来への第一歩。

★教材本文・3種類6パターンのテスト問題を収録した、先生用CD-ROMも完備！

★（①現代文だけで満点　②現代文と古典で満点）×3回分の計6パターンをご用意しました。

二　古文入門（各2点×10）

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

（1）①今は昔、竹取の翁とアいふ者ありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、②よろづのことにイ使ひけり。

（2）③つれづれなるままに日ぐらし硯（すずり）にウ向かひて、心にうつりゆくよしなしごとをそこはかとなく書きつくれば、④あやしうこそ物狂エほしけれ。

問1　波線部ア～エの読み方を現代仮名づかいで書きなさい。

問2　傍線部①～④の意味として、適切なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

①「今は昔」
（ア　現在　イ　昔昔　ウ　これから先）

②「よろづのこと」
（ア　よいこと　イ　ささいなこと　ウ　色々なこと）

③「つれづれなるまま」
（ア　早朝　イ　退屈なとき　ウ　静かなとき）

④「あやしう」
（ア　疑わしい　イ　妙に　ウ　普通に）

問3　（1）（2）の作品名を後から選び、記号で答えなさい。

ア　今昔物語集（こんじゃくものがたりしゅう）　イ　徒然草（つれづれぐさ）
ウ　枕草子（まくらのそうし）　エ　竹取物語（たけとりものがたり）

三　漢文入門（各2点×5）

問1　返り点に従って、読む順番を数字で書きなさい。

（1）□レ□レ□
（2）□一□□□。
（3）□レ□一□□。

問2　次の各文を書き下し文に直しなさい。

（1）春眠不レ覚エレ暁ヲ。
（2）疑心生ズ一暗鬼ヲ。

四　漢字・慣用句・ことわざ（各2点×25）

問1　次の傍線部の片仮名を漢字に直しなさい。

（1）①新入生**タイショウ**の説明会が行われる。
　　②左右**タイショウ**の図形を描く。
（2）①電車に**ノ**る。
　　②新聞記事に**ノ**る。
（3）①友人と**ア**う約束をした。
　　②趣味の**ア**う友人と出かける。

問2　次の傍線部の片仮名を漢字に直しなさい。

（1）親友の**チュウコク**に助けられた。
（2）**ゼンレイ**のない珍事であった。
（3）将来は**フクシ**関係の仕事につきたい。
（4）子どもたちを**ヒキ**いて野外活動をする。
（5）趣味の話で会話が**ハズ**んだ。

問3　次の傍線部の漢字の読み方を答えなさい。

（1）①**優**しい人柄。
　　②**優**れた作品。
（2）①試合に**勝**つ。
　　②**勝**るとも劣らない。

問4　次の傍線部の漢字の読み方を答えなさい。

（1）やさしい**口調**で語りかける。
（2）新しい考えが**脳裏**にひらめいた。
（3）**若干**の訂正が必要である。
（4）**不器用**でも一生懸命がんばろう。
（5）神社の**境内**で鬼ごっこをした。

問5　次の空欄に入る言葉を後から選び、記号で答えなさい。

（1）□の耳に念仏
（2）□の手も借りたいほど忙しい
（3）住めば□
（4）弘法も□の誤り
（5）ぬかに□

ア　犬　イ　馬　ウ　猫　エ　釘（くぎ）　オ　針
カ　筆　キ　硯（すずり）　ク　都